



**深刻な人口予測!**  
本年3月、国立社会保障・人口問題研究所が発表した2045年の将来推計人口。新潟県の総人口は2015年と比べ26.3%減の169万9千人と予測されました。減少率は全国14位で、2015年に比べて県内30市町村すべてで人口が減少します。  
平成30年4月の人口は、約225万人で、人口の最も多かった平成9年に比べ、約20万人以上も減少しています。特に、注目すべき点として、

前月号と今月号は、**人口問題を昨年2017年9月号に続き、2回に分けて取り上げています。**人口減で行政機能を維持できなくなる可能性が指摘されていますが、自治体は待ったなしで人口減に耐える行政の在り方を考え直さなければなりません。

## 若者の県外流出による影響?

若者の県外流出による影響。県は、人口流出の主因は若年層の転出であると分析しています。たしかに、人口が減るといふ問題も大きいですが、特に、若者の人口が減るといふことは、様々な問題をもたらすものと考えています。

- ◆市場拡大が見込めない(市場の縮小)
  - ◆生産年齢人口の減少(人手不足)
  - ◆年金・介護制度への影響
- 特に、20歳から24歳の若者の割合が圧倒的に多く、毎



年、多くの若者が県内を離れています。若者の流出が続くことにより、生まれてくる子どもの数、出生数にも影響します。さらに、出生数が増えなければ人口が増えないという、いわゆる「負の連鎖」に陥ることが懸念されます。

今春、県内の中学卒業生は、前年度より約1300人減の約1万9800人と、初めて2万人を割り込み、10年後には約16600人と減る見通し。県は、高校再編の検討作業を進めています。これらの現実にもっと関心を高めていかなければ、新潟県や市の将来に夢と希望が持てなくなりそうです。また、市内唯一の公立高校である阿賀野高校の将来にも影響が及ぶものと思っています。

# 全市民、友と友、手を取り合い、阿賀野市活性!

## 人口の現状と予測!

阿賀野市は、国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「国の総合戦略」という。))の基本的な考え方や政策5原則を踏まえ、平成27年10月、阿賀野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「市総合戦略」という。)を策定しています。

この市総合戦略は、市の人口ビジョンを策定し、これを踏まえた人口減少と地域経済縮小の克服を図るための5か年の基本的方針や基本目標、具体的な取組方向性をまとめたものです。この市総合戦略の中で、まちの現状として人口の現状と予測が示されています。(出典:阿賀野市まち・ひと・しごと創生総合戦略)

## 自然人口(出生)に影響を与える要因

■合計特殊出生率の推移

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
阿賀野市	1.30	1.29	1.36	1.32	1.39
全国	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43
新潟県	1.37	1.43	1.41	1.43	1.44

(出典:新潟県)

■婚姻率(人口千人当たり)の推移(県内30自治体中20位)

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
阿賀野市	4.8件	3.7件	3.5件	3.3件	3.6件
全国	5.5件	5.2件	5.3件	5.3件	5.1件
新潟県	4.7件	4.4件	4.4件	4.3件	4.3件

(出典:厚生労働省 人口動態統計)

■平均初婚年齢の推移

	1985年 30年前	1995年 20年前	2005年 10年前	2014年 現在
全国(夫)	28.2歳	28.5歳	29.8歳	30.8歳
新潟県(夫)	28.0歳	28.5歳	29.7歳	31.1歳
全国(妻)	25.5歳	26.3歳	28.0歳	29.4歳
新潟県(妻)	25.5歳	26.2歳	27.7歳	29.1歳

(出典:厚生労働省 人口動態統計/新潟県)

# 少子化に拍車、増え続ける生涯未婚率!!

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所の調査によれば、2015年の「生涯未婚率（50歳までに一度も結婚したことがない人の割合）は、男性23.37%、女性14.06%で、2010年の前回調査より男女ともに3ポイント伸びています。

新潟県は、男性25.15%（前回21.11%）、女性12.41%（前回8.45%）で、2010年の前回調査より男女ともに約4ポイント伸びています。



同研究所では、2035年には男性約29%、女性約19%まで上昇すると推計しています。

県は市町村と連携しながら、

経済的不安を解消するための雇用の安定や子育てしながら働ける環境づくりを、さらに積極的に進めていかなければならないと考えています。

## 人口問題への提案!

### ■私たち住民の役割

人口問題は、社会経済、行政、暮らしなど、あらゆる分野に大きな影響を及ぼすものであり、これまでの常識にとらわれず、大胆な発想による持続可能な取り組みを進めていかなければならないと考えています。

その取り組みを進めるにあたっては、人口問題の分析や、対策（雇用、教育、結婚、子育て、地域の活性化等）の処方箋を示す役割は県や市の行政側にあると思いますが、暮らしの基盤である地域を運営しているのは私たち住民です。

それぞれの役割分担の明確化を図り、相互に連携しながら、効果的な取り組みを展開していかなければなりません。

まず、私たち住民ができることとして、人口が減るなりに、この地域の暮らしやすさをより高め、地域の若者に「この地域で夢と希望を抱いて、こんな暮らしができる。」ことをアピールでき

るよう、みんなで知恵を出し合い、様々な活動に結び付けていかなければならないと考えています。

### ■大胆な発想転換で活路

例えば、人口減少に歯止めをかけることができないのであれば、人口減少社会に合った地域経済や行政、地域社会のしくみを変えていくのも一つの方策です。市の将来予測人口（2040年）は約3万人ですが、現在の人口約4.3万人に比べ、約1.3万人（▲3割）減となります。この人口規模に見合う市（行政）のあり方を考えていかなければなりません。

一つの事例として「コンパクトシティ」という考え方があります。コンパクトなシティ（都市）ということですが、人口の少ない小都市という意味ではなく、商業地や行政サービスといった、生活上必要な機能を一定範囲に集め、効率的な暮らしや行政を目指すことといわれています。

### ■若者が感じる魅力の創出

いま、若い人が市外へ流出しています。若年者が市内で定住するには、地元「働く場」があることがきわめて重要な条件です。市内企業の有志で構成する「阿賀野経営者同友会」では、県



立阿賀野高校とのインターシップや意識啓発講演会などの活動を行い、社会人としての心構えや、働くことへの意義などを学ぶことを通じて地元への定着に寄与しています。

阿賀野市の未来を担う若い人たちが、地元で働き、結婚して子育てを行い、地域社会の発展に貢献ができるように、「若い人にとっての地元の魅力とは何か」をみんなで考えていかなければなりません。

このままのスピードで人口が減り続ければ、私たちの生活にも大きな影響が及んでいきます。若い人の市外流出を押し止めるには、阿賀野市の魅力を高め、いくことが肝要かと考えています。

ここに阿賀野市の魅力として

◆人のやさしさ

◆文化・自然の魅力

◆（こころの癒し）

◆教育・子育て環境の魅力

◆（学びやすさ・子育てのしやすさ）

◆地域社会の魅力

◆（暮らしやすさ）

◆（働きやすさ）

◆（職場産業（農・商・工）の魅力

などを挙げてみましたが、読者の皆さんからも提案していただければ幸いです。

これらの「魅力の創出」をそれぞれの立場の皆さんが真剣に取り組むことによって、若い人が阿賀野市の魅力を肌で感じ、地元で働き、社会から感謝され、生き甲斐を感じ感動する人間に成長していけるよう、「阿賀野市のすがた」を変えていくことが、人口問題の解決への一つの方策として考えています。

阿賀野市が元気になる、提案・意見をお寄せ下さい。

次回テーマは「防災・減災について」です。特定の思想・主義の主張や、他者への非難や批判ではなく、あくまでも建設的な内容に限ります。文字数は400字以内です。

ほかりけんじ事務所  
〒959-2221 阿賀野市保田 737-2  
TEL:68-5441 FAX:68-5515